



キラリまきらっこ



学校生活スタートから1ヶ月!

校長 前三盛 敦



真喜良小学校の運動場には、5月の爽やかな風が吹き、こいのぼりが元気よく泳いでいます。保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、287名の真喜良っ子でスタートした令和5年度も早1ヶ月が経ちました。1年生をはじめ各学年とも新しい学級での学校生活にも慣れ、明るく元気に学んでいる様子が伺えます。

4月27日には、運営委員会主催の1年生を迎える会が開催され、児童全員が「真喜良小クイズ」、「じゃんけん列車」等で交流しました。これまでは、コロナ禍で学校行事が制限されていたので、久しぶりに体育館は子ども達の大きな歓声に包まれ、児童も先生もみんなて交流する楽しさを満喫しました。5月8日より、新型コロナウイルス感染症は、季節性インフルエンザと同じ感染症法の5類へと変更になりましたので、今後、学校行事も制限を解除しながら、魅力あふれる行事に移行していけると喜んでいます。

また、4月19日～25日に実施いたしました家庭訪問におきましては、ご協力いただきありがとうございました。学校と家庭がしっかり連携していくことで、お子様の成長をより豊かなものにいたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、5月14日は「母の日」ですね。お母さんをテーマに書かれた子ども達の詩を紹介させていただきます。子ども視点からのお母さん像が面白かったり、ハッとさせられたりしますので、我が子と置き換えて味わってみてください。

お血荒い
鈴木 千絵 (小6 神奈川)

お母さんに借りたエプロン
背が高くなった気分
洗い物をしていると
弟がまちがえて
「お母さん」と来る
いっより優しく返事する



おまじない
みうら ゆかり (小2 東京)

おふろにはいるたびに
おかあさんは 私の顔をこすりながら
「かわいくなあれ びじんになあれ」
とおまじないする
そうすると きのうより
かわいくなった気がする
おかあさんは おばあちゃんに
おまじないしてもらわなかったのかな

わたしとママ
坂上 あんず (小2 福島)

ママの顔をみると
なにかしゃべりたくなります
「ねえ」だけでもいたくなります。
「ねえ」といつてから
話すことを考えます
どんなに考えても話すことがなかったら
「なんでもない」といいます

昨年、読まれた方も多いたとは思いますが、八重山毎日新聞(9/30)に投稿掲載された第59回「勇気づけの教育」の下記の文も読んでいただければ嬉しく思います。

お母さんとは、「太陽」のことだった！

「おかあさん。なあに。おかあさんっていい におい♪」これは、童謡「お母さん」のはじめの歌詞です。皆さんは、お母さんのイメージをどのように感じていますか。お料理する時のたまごやきのにおいや洗濯する時のしゃぼん玉のにおいでしょか。



では、「元始、女性は太陽であった。」この言葉を聞いたことはありますか。これは女性解放運動家の平塚雷鳥が、1911年女性による女性のための文芸誌「青鞥(せいとう)」を創刊するにあたって、巻頭に寄せた発刊の辞になります。先日、境野勝悟著「日本のこころの教育」を読んだ折り、「元始(昔、物事のはじめ)は、女性は太陽であった。」という真の意味が理解できると同時に、とても内容に共感いたしましたのでお伝えします。

お母さんのことを、歌舞伎では「カカさま」と言っているのを聞いたことがあると思いますが、昔は、お母さんを「カカ」や「カカア」「カカさま」と呼んでいたそうです。ひらがなの「か」の音は「カッカッ」からきており、太陽が燃えている様子を表す擬態語でした。つまり「か」とは「日=太陽」のことになります。また、ひらがなの「み」の音は、私たちの身体という意味になります。それが「か」とくっついて、「日身(かみ)さん」と呼ばれるようになりました。今でも、妻を紹介するときに「うちのカミさんです。」と言うことがありますが、「私の家の太陽みたいな存在の女性です。」という意味になります。かっこいいですね。

お母さんは、いつも明るくて温かい、まるで太陽のよう。お母さんは、私たちが産み育ててくれる、まるで命の源である太陽のよう。このようにお母さんは、まさに太陽そのものということから、昔は「お日身(カミ)さん」と言ったのです。そして今現在、「お母さん」として現代に残っているわけです。

いかがですか皆さん、「お母さん」に、こんな意味や由来があるってことを知るだけで、次から「お母さん」って呼ぶときに、言葉に込める気持ちが変わってくるのではないのでしょうか。

では、同じように父のことをなぜ「お父さん」って呼ぶのでしょうか。昔は、父のことを「トトさま」と言いました。確かにこれも歌舞伎などで聞いたことがありますね。「トトさま」の語源は、「尊い方」になり、夫は、妻や子どものために一生懸命外へ出て働いて、毎日毎日の糧を運んでくれる、子どもや家族を自然界の困難や危害を与える賊から守ってくれるという「尊い方」の「尊(とうと)」からきているそうです。

「お母さん」「お父さん」の語源については、諸説あると思いますが、境野さんの話はとても心に落ちました。日本は、昔から私たちの生命にとって大切な太陽や大地、自然を限りなく尊び、崇拝してきました。そして生命の源である太陽から「お母さん」という言葉が生まれたのです。私はこの言葉の意味を知ること、改めて両親のこと、私たち家族のつながりについて考えさせられました。そして、私自身、お母さんに太陽のように明るく温かく見守れて育ったこと、お父さんに困難や危険から守ってもらったことなど、感謝の気持ちが心の底から溢れてきました。そして、私たちもこの呼び名にふさわしい父親・母親でありたいと思いました。

普段何気なく使っている「お母さん」「お父さん」という呼び方ですが、私たちは千年以上の前から自分の母のことを「太陽さん」と呼んでいたとことに深く感動しました。ママ、パパの呼び方にもよさはあると思いますが、子どもたちに「お母さん」「お父さん」の言葉の意味については、日本語の持つ奥深さと合わせて伝えていただければ嬉しく思います。～母の日おめでとうございませう。～

